

J-クレジット制度 プロジェクト計画書 （排出削減プロジェクト用）

プロジェクトの名称：

るすつ子どもセンターへの再生可能エネルギー熱
利用設備導入事業

プロジェクト 実施者名	留寿都村
----------------	------

妥当性確認申請日 2015年 8月 25日

プロジェクト登録申請日 2015年 11月 18日

1 プロジェクト実施者の情報

1.1 プロジェクト実施者（複数のプロジェクト実施者がいる場合は代表実施者）

実施者名	(フリガナ)
	ルスツムラ 留寿都村
住所	虻田郡留寿都村字留寿都 175 番地

1.2 プロジェクト代表実施者以外のプロジェクト実施者

実施者名	(フリガナ)
住所	

1.3 J-クレジット保有者

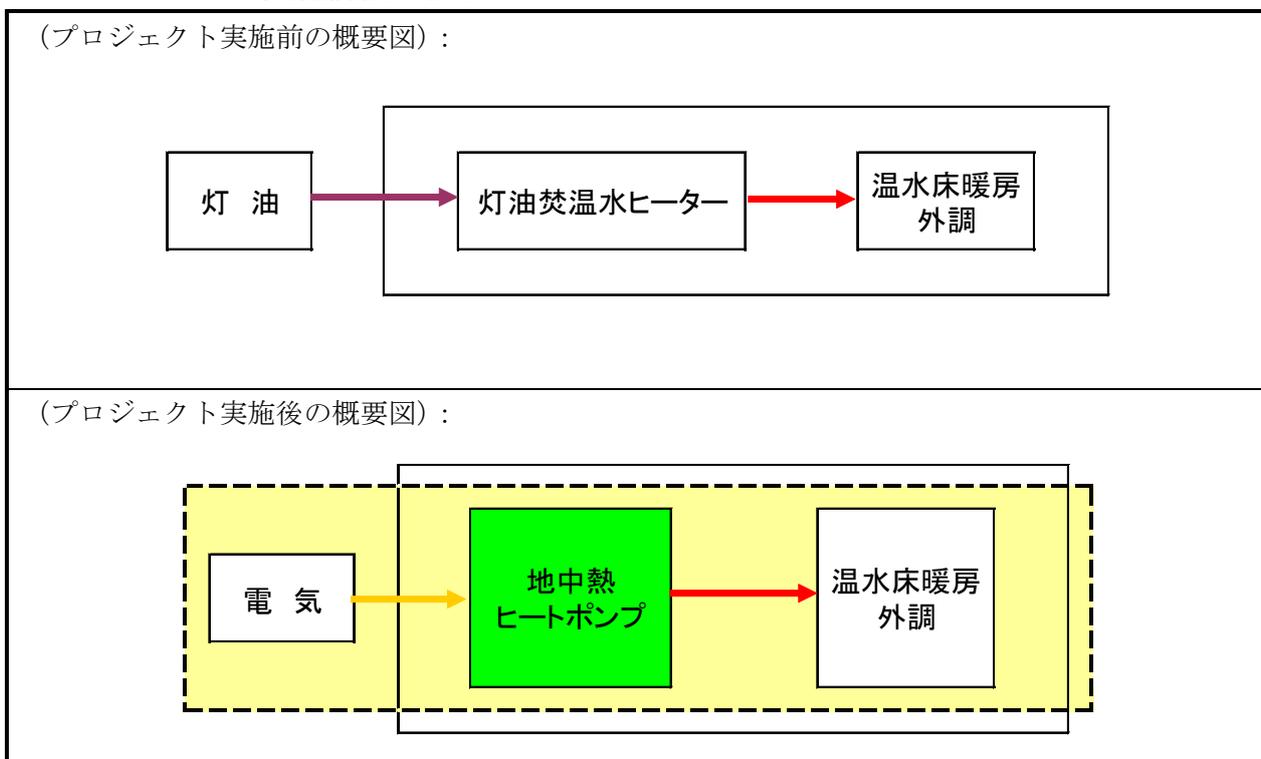
保有者名	(フリガナ) コウエキサ ^ダ イタンホウジン ホッカイト ^ダ ウカンキョウサ ^ダ イタン
	公益財団法人 北海道環境財団
住所	札幌市中央区北4条西4丁目1 伊藤・加藤ビル4F

2 プロジェクト概要

2.1 プロジェクトの目的及び概要

プロジェクト名	るすつ子どもセンターへの再生可能エネルギー熱利用設備導入事業	
目的	本事業は、標準的な熱源機器ではなく、再生可能エネルギー熱を利用する熱源設備を導入する事で、省エネルギー・省CO2化を図るものである。	
概要（削減方法）	施設の熱源機器として標準的に使用される灯油焚温水ヒーターではなく、地中熱利用設備を導入する事で、温室効果ガス排出削減を図る。	
プロジェクト実施場所	実施事業所名	るすつ子どもセンター
	住所	虻田郡留寿都村字留寿都 182 番地 2

2.2 プロジェクト実施前後の状況



2.3 プロジェクト要件への適合

プロジェクトの実施日	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2013年4月以降に実施されたプロジェクトである □ 2012年4月～2013年3月に実施されたプロジェクトであり、国内クレジット制度における事業承認及びオフセット・クレジット(J-VER)制度におけるプロジェクト登録のいずれも受けていない □ 2008年4月～2013年3月に実施されたプロジェクトであり、国内クレジット制度における事業承認又はオフセット・クレジット(J-VER)制度におけるプロジェクト登録を受けている ※3
追加性	■ 追加性を有している

方法論

2.4 適用方法論

適用する方法論	方法論番号	<u>EN-S-002 Ver.1.1</u>
	方法論名称	ヒートポンプの導入
更新／新設	<input type="checkbox"/> 更新プロジェクト	<input checked="" type="checkbox"/> 新設プロジェクト

2.5 方法論の適用条件への適合

条件 1	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	<p>説明</p> <p>本事業にて導入したヒートポンプの効率（COP）は430%であり、標準的な熱源設備である灯油焚温水ヒーターの効率84.1%を上回る。</p> <p>標準的な熱源設備として灯油焚温水ヒーターを選定した理由は以下の通りである。</p> <p>①機器群の特定</p> <p>本事業は、温水床暖房の熱源として地中熱ヒートポンプを導入しており、同様の事業において通常採用されうる機器群として灯油焚温水ヒーターを選定した。</p> <p>②設備の特定</p> <p>温水ヒーターで通常用いられる燃料としてA重油等が考えられるが、事業実施場所の状況を踏まえ、調達可能な燃料の中でランニングコストおよび炭素排出係数が低い、灯油焚の暖房機を選定した。</p> <p>③設備効率の設定</p> <p>同等の出力を有するそれぞれ異なるメーカーの機種3種類の平均値を採用した。</p>
条件 2	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	<p>説明</p> <p>ヒートポンプで生産した温熱は全量当該施設で消費する。</p>
条件 3	<input type="checkbox"/> 適合している	説明
条件 4	<input type="checkbox"/> 適合している	説明

2.6 モニタリング・算定方法

ベースライン排出量				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度	モニタリング・算定の実施
主要	温水ヒーターの使用	CO2	－	■排出量の算定を行う
主要			－	□排出量の算定を行う
付随的				□排出量の算定を行う □排出量の算定を省略する
付随的				□排出量の算定を行う □排出量の算定を省略する

プロジェクト実施後排出量				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度	モニタリング・算定の実施
主要	ヒートポンプの使用	CO2	－	■排出量の算定を行う
主要			－	□排出量の算定を行う
付随的	冷媒（R410A） の漏洩	R410A	4.4%	■排出量の算定を行う □排出量の算定を省略する
付随的				□排出量の算定を行う □影響度により排出量を評価する

3 排出削減計画

認証予定期間	2015年11月18日 ～ 2021年3月31日（5年4ヶ月）					
排出削減計画	年度	ベースライン排出量		プロジェクト実施後 排出量		排出削減量
	2013年度	t-CO2		t-CO2		t-CO2
	2014年度	t-CO2		t-CO2		t-CO2
	2015年度	13.1	t-CO2	6.2	t-CO2	6 t-CO2
	2016年度	35.6	t-CO2	16.9	t-CO2	18 t-CO2
	2017年度	35.6	t-CO2	16.9	t-CO2	18 t-CO2
	2018年度	35.6	t-CO2	16.9	t-CO2	18 t-CO2
	2019年度	35.6	t-CO2	16.9	t-CO2	18 t-CO2
	2020年度	35.6	t-CO2	16.9	t-CO2	18 t-CO2
	合計	191.1	t-CO2	90.7	t-CO2	96 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input type="checkbox"/> 電力のCO2排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由（以下に記載すること）					

4 データ管理

データの品質を確保するための仕組みとして、データ収集・集計等体制の整備と個別データの信頼性の向上について以下に記載する。詳細については、J-クレジット制度実施規程（プロジェクト実施者向け）「2.4」を参照のこと。

4.1 モニタリング体制

データ管理責任者	るすつ子どもセンター長
モニタリング担当者	るすつ保守所長

4.2 モニタリングデータの収集・記録・保管

モニタリングデータの収集・記録・保管の手続	<ul style="list-style-type: none">・積算熱量計の数値を月1回確認し、電子データで記録する。・排出係数はJ-クレジットデフォルト値を確認する。・プロジェクト実施前後の設備の仕様書を保管する。
データ保存期間	認証対象期間終了後__2__年間

5 特記事項

5.1 排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクの特定について

排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクがあるか

有 無

(「有」にチェックした場合に記入)

項目	概要
リスク要因	・外気温の変動 例年より気温が高い場合は、機器稼働時間が短くなり排出量が減少する。

5.2 ダブルカウントの防止措置について

類似制度へプロジェクトを登録しているか。

登録している

(類似制度名： _____)

類似制度での認証予定期間： _____)

登録していない

5.3 法令等の義務の有無について

プロジェクトの実施は、法令等の義務履行によるものではないか。

法令等の義務履行によるものではない。

法令等の義務履行によるものである。